

I-7 ノート指導

先生、励ましのコメントがうれしい！

☆ 目的に応じた書き方を指導する。

「ノートに書く」といっても、その目的はさまざまです。「何を書くのか」「何のために書くのか」を明確にさせて、その目的に応じた書き方を指導しましょう。

<目的>

<指導のポイント>

習ったことを書きとめる。

1時間の授業の要点を整理し、後で見直すために書く。

- ・ 要点が整理された構造的な板書をする。
- ・ 大切な語句は、赤や青を使う。
- ・ 解き方や考え方などのまとめの文章は、線で囲む。

考えをつくったり、深めたりする。

予想、調べて分かったことや考えたことなどを書く。

- ・ 「自分の考え」を書く時間をとる。
- ・ 「友達の考え」を書くことで、自分の考えと比べる。
- ・ 「分かったこと」と「考えたこと」は、分けて書く。

練習して定着を図る。

漢字や英単語、計算問題などを繰り返し練習するために書く。

- ・ 「5分間で」「10回ずつ」と具体的に指示をする。
- ・ どこで間違えたか分かるように、思考の過程（補助計算など）も書き残す。

☆ 学びを振り返ることができるような工夫をする。

「前の時間は何を習ったかな？」と聞いたとき、子どもたちは自分のノートを広げて確認できていますか？子どもが振り返ることができるように書き方を工夫しましょう。

○ 振り返るためには、目印が必要！

(例)

12/10
P31

「日付」「教科書のページ」「問題番号」などは、位置を決めて書く。

め

部屋のコミグアイを、たたみの数と人数を使って説明しよう。

自

たたみ1まいあたりの人数で比べると
A部屋 $6 \div 10 = 0.6$ (以下略)

友

子ども1人あたりのたたみの数で比べると
A部屋 $10 \div 6 = 1.666\cdots$ (以下略)

ま

こみぐアイは、「1〇〇あたり□□」にして考えると、くらべることができる。

「学習問題(学習課題、めあて)」「予想」「自分の考え」「友達の考え」「まとめ」などは、印や書き方を決めて、黒板にも同じように書くとよい。

○ ノートを見直す習慣付け

- ・ 「前の時間に、どんな意見が出ていましたか？ノートで確認してみましょう。」と教師が促すことで、子どもは「ノートを見ればいいんだ。」「ちゃんと書きとめよう。」と思うようになる。

○ 一目で分かるように、間違いは赤で修正

- ・ 漢字や英単語、計算問題などの間違いは、赤で書き直したり解き直したりするようにすれば、後で見直す必要のあるものが一目で分かる。
- ・ 整ったノートではなく、子どもの学びの跡が分かるノートであることが大切。

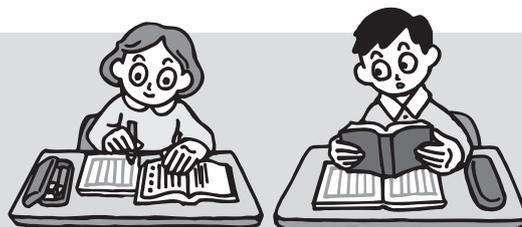
☆ ノート指導を通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

ノートは子どもが自分のために書くものですが、学ぶ意欲を高めるためには、仲間の承認、教師の助言や励まし、保護者の温かい言葉かけなどが大きな役割を果たします。

○ 授業で子どものノートを活用しましょう。

<活用例>

- ・ 子どもがノートに書いた内容を確認し、学級全体で意見交流が深まるように発表する順番を工夫する。
- ・ 教材提示装置などでノートを大きく写して発表する。
- ・ 互いのノートを見て、意見や感想を付箋に書いて貼る。
- ・ 単元の終わりに振り返りの時間を設け、新たに分かったことや考えの変化を確認することで、子どもが自分の成長を確かめられるようにする。



○ ノートを点検・評価し、助言や励ましの言葉を書き添えましょう。

<例>

- ・ 子どもの気付きを評価するとともに、他の見方や考え方のヒントを書き添えることで、子どもの考えの深まりや広がりを促す。
- ・ 誤字や記述の誤りの訂正、内容の補足をする。
- ・ 子どもの変容や進歩を見逃さず具体的にほめる。
- ・ ノートの使い方の工夫や学習に取り組む姿勢のよさを具体的にほめる。



保護者にノートを見てもらうときの工夫！

保護者がノートを見たときに、友達からの意見や感想、先生からの助言や励ましの言葉が書き添えられていたら、保護者は日々の丁寧な指導に納得するものです。子どもの取組のよさや考えの深まりなどが伝わるように、ノートに書き添える言葉を工夫してみましょう。

わん！ポイント！

